**⑥　国際システムの安定**

**Ⅰ．勢力均衡と国際秩序**　　ブル『国際社会論』（2000年、原書1977年）第5章

１．勢力均衡の意義

　定義（ヴァッテル(政治思想家)）：いずれの一国も【優越】的地位を占めておらず、他国に対して自らが正しいとみなすことを独断的に【命令】できない状況

→これが勢力均衡の状態

→ balance of power　どの時代でも勢力均衡が必要、秩序の制度、歴史的に特定の時代に限られていく

　国際システム全体としての勢力均衡を保持することの【共通目標】化　17C欧州

　　【ルイ１４世】に対する諸同盟　スペイン継承戦争　孫のフェリペ5世　スペイン王

→ルイ１４世の時代にあまりにも力がつきすぎたことから

→スペイン継承戦争→イギリスに国が負けてしまう

→イギリス、が大英帝国になるきっかけに

→この戦争によって、、、、

⇒　1713年の【ユトレヒト】講和条約前文　／　王位承認　仏西合同否認

→フランスが負けたが、、、王位の継承は認められたが、仏西の合併は認められた

２．勢力均衡の役割

①一般的な勢力均衡：主権国家【システム】の維持　普遍的帝国の形成の阻止

→優越的地位につくことを阻止、主権国家からなる社会を維持

②地域的な勢力均衡：特定地域の国々の【独立】の保護

③一般・地域的な勢力均衡：国際秩序が依って立つ他の諸【制度】の機能の前提

*批判への回答*

*→勢力均衡がもつれて世界大戦になってしまったではないか！！*

・結果として必ず【　平和　】の保持をもたらすわけではない　従属的目標

→超大国の出現の阻止を先にすべき、、

→必要があれば武力を使うべき

→従属的な目標

・ポーランド分割などの【　小国　】の犠牲は、勢力均衡原則の逸脱ではなく、適用

→独立の保護→歴史を見ると小国の犠牲がある

→小国の犠牲により、勢力の保持がある

　・【国際法】が機能するための基礎的条件　相互主義　独断的に命令できない状況

⇔　違反を伴うことも多い　【武力】の行使・威嚇　秩序の要件＞法の要件

　・【　　無意味　】な概念として捨て去ることは誤り

→勢力均衡は現実としてあるものだから、捨てるのは誤り

　・優越的国家が美徳と【　善意　】や【　立憲　】主義制度により脅威とならない説に反論　→　優越的国家、アメリカという国は特殊

　・国際秩序を保持するのであれば、【　　勢力均衡　　】を意図的に維持する必要がある

→共通目標化していれば良い

→正当化されていれば良い、意図的に目指す

３．勢力均衡の今日的意義(1970年代)

　現在、一般的な勢力均衡状態が存在　国際秩序について同じ[役割】を果たしている。

　1970年代　【　複合　】的な均衡：19Cのヨーロッパ勢力均衡システムとの違い

→18c、19cのものとは勢力的に違っている、とても対照的

1. 力の【　平等　】関係なし　2)たくさんの【　チェス　】盤　→19cの軍事力から、色々な分野(軍事、政治、経済)　に文化しているということ
2. 等【　距離　】ではない　限定的な外交的【　柔軟　】性

→イデオロギー→いきなりソ連は考えられない

→今日の敵は明日の敵

→冷戦時代になると、等距離ではないし、柔軟性も失われている

4)共通目的としての一般的【　合意　】なし、5)共通【　文化　】の基礎なし

→キリスト教では国際社会は広がる

**Ⅱ．安全保障のジレンマ**

1. 中江兆民『三酔人経綸問答』（1887年）、106-107頁

→どちらも戦争を好きで始めているわけではない！→

　　【　戦争　】を恐れる、fearから始まる・【　相手　】を恐れる⇒【　軍備　】を整える⇒相手も【こちら　　】を恐れる

　　　⇒相手も【　軍備　】を整える⇒【　軍備　】競争

⇒【先　】んずれば人を制すと考える様になる⇒【　開戦　】

　２．ジョン・ハーツの安全保障のジレンマ（1950年代）

　　①個人や集団は、ほかの個人や集団を攻撃する【　能力　】を持っている。潜在的な敵

　　②個人や集団は、ほかの個人や集団の【　意図　】について知るよしもない。不確実性

　　⇒相互の【　不信　】や【　恐怖　】⇒【　　安全保障　　】の要求⇒【　パワー　　】の追求

　　安全保障のジレンマは、上位の【　権威　】がないところで深刻になる。アナーキー

　　【　社会　】的状況が重要　⇔　【　人間　】性が重要（モーゲンソー）

**Ⅲ．現在の安全保障環境**

１．グローバルな安全保障環境

　　①総論　国家安全保障戦略　『白書』463-464（小見出し）→見とけ！！！！

→技術革新、北朝鮮、国際テロ、人間の安全保障、リスク超えるグローバル経済

→中国の積極的進出

→P142 、ロシア軍の配置　→これが大国意識を支えている

②ロシアによる【　　クリミア　　】半島や【　　　ウクライナ　　】東部における現状変更（2014年）

親ロシア派武装勢力　『白書』64(1), 142（図表）

**ハイブリッド戦**：破壊工作、情報操作など多様な【　非軍事　】的手段や秘密裏に用いられる【　軍事的　】手段を組み合わせ、外形上「【　武力攻撃　　　】」と明確には認定し難い方法で【　侵害　】行為を行うこと

**→国際社会から非難を受けないようにするために**

　２．日本を取り巻く安全保障環境

　　①総論　国家安全保障戦略　『白書』464（小見出し）, 67（図表）, 65, 63

　　　特徴：【　　地域協力　　】枠組みの制度化は不十分、【　領土　】問題や【　統一　】問題の継続

**グレーゾーンの事態**：純然たる平時でも有事でもない幅広い状況

→幅広い状況→海上保安庁→事実上尖閣はグレーゾーンの事態

→背後には軍事組織も控えている

②朝鮮半島　『白書』80-82

→P79みとけ

朝鮮戦争は【　休戦　】状態→【　非武装　　】地帯（DMZ）、【 150 】万人程度の地上軍対峙→横浜市民の半分くらい

→朝鮮戦争は終わっていない！！！

→南北首脳会談→ハンモンセン→そこは非武装地帯

図表（79頁）で停戦状態を表しているものはあるか　【　　国連軍司令部　　　】・【　兵役　】

　　長射程【　下方　】　DMZから40kmの首都ソウルが射程内　600門以上

→ソウルの100万人くらいが死ぬ可能性が否めない

→韓国も北朝鮮も兵役がある→日本だと憲法違反だと揶揄されるのに、、、、、、、、、、、

→日本の若者には想定できないような事態

→地図→朝鮮戦争では北と国連軍が戦った→横須賀だと国連の旗がある

●勢力均衡

→1970年代では一般的な合意がなかった→19Cではあった

→欧州では共通目標ができた

→ナポレオンが収めまくった結果

●安全保障のジレンマ→上位の権威がないとアナーキーの意味

→

無政府→国家の上に来る権威はない

→国際社会は無秩序→国家を束ねるような組織はない

●ジョーハーツ

国際政治においてパワーは重要

→行使できるから

→全部の国が国際政治の悲劇を言い当てている

人間性のh中に悪がある

クリミア半島のハイブリット制

→ラジオ局を使う

→住民投票→任意の反映

→巧妙に反映

→G8から追

19cのせえ

19cの勢力均衡システム

→ロシアとアメリカ→日本とアメリカソ連みたいなもの

今の均衡

→アメリカがパワフル

→アメリカは特別な国

→海に隔てられているから

→アメリカ海の向こうにいると均衡が保てる

→地域的に見れば、勢力均衡が成り立っている、南北朝鮮など

→今日の世界でも見られる